

## 一般質問発言通告書

議席番号 21 番

氏名 川神 裕司

答弁を求める者

市長

教育長

監査委員  選挙管理委員会委員長

(○をつける)

農業委員会会長

固定資産評価審査委員会委員長

公平委員会委員長

発言項目及び要旨

### 1 石見神楽「ものづくり」文化財指定の課題について

(1) 石見神楽「ものづくり」に対する現在の取組状況について

① 文化財審議会の動きが極めて鈍いと感じるが現在の状況はどうか問う。

(2) 石見神楽「ものづくり」の文化財指定の障壁について

① 先日「ものづくり」の文化財指定を心待ちにしていた石見神楽面創作の巨匠が亡くなった。石見神楽の「ものづくり」文化財指定あってこそ、期待される石見神楽伝承施設も輝く。改めて文化財指定が進まない障壁は何か問う。

### 2 地域の存続をかけた人口減少対策について

(1) 今後浜田市が死守すべき人口ラインについて

① 浜田市都市計画マスタープランの将来人口は令和14年において、42,690人としている。今後「都市存続」の観点から市長はこれ以上絶対に人口を減らすことはできないという人口死守ラインをどこにおいて市政運営を行うのか問う。

(2) 人口減少対策の最重点施策の少子化対策について

① 国において、異次元の少子化対策として最重点課題の一つとして取組を始める。「こども家庭庁」設置で子育て環境の整備こそ少子化対策の根幹という考え方は同調する。市もさらに大胆な子育て支援戦略を打つべきではないか。特に井戸端会でも提案された「地域で子供を育てる」仕組みも視野に入れた施策に対し市長の所見を問う。

(3) 人口減少に歯止めをかける「若者定住対策」について

① 少子化対策と同様に重要な施策は「若者定住」と考える。浜田市には県立大学学生等多くの若者が生活しているが、彼らが地域に魅力を持ち就労の場所として定住化してくれることは極めて意義が大きい。大切な事は若者の意見を拾い上げる仕組みづくりと各種計画に若者視点を反映させるということである。今後特に力を入れる若者支援、若者定住化対策を問う。

② 車を持たない若者や高校生の移動手段として公共交通の在り方が問われている。公共交通利用者は高齢者が中心と思われがちだが、学生の通学等公共交通の果たす役割は大きい。「第2次地域公共交通再編計画」は任意計画。今後令和6年6月末までに「活性化再生法」に基づ

く「地域公共交通計画」を策定する必要がある。その際若者の視点もしっかり取り入れて計画を策定すべきだが市長の考え方を問う。

### 3 安心して暮らせる医療体制構築へのアプローチについて

#### (1) 地域住民の地域医療に対する啓発活動の推進について

① 先日「地域医療を守る会」の総会が、コロナが落ち着いたことから久しぶりに開催された。ただ参加者からは、医療関係者や各種団体代表等幅広い分野から参加している会であるにも関わらず、現在浜田が抱える地域医療の課題が議論され課題解決のためのアプローチがあるわけでもなく、住民参加により地域医療を守る取組が具体的な道筋が見えないと指摘している。浜田市健康づくりと地域医療を守り育てる条例を平成 24 年 3 月 23 日に制定し、地域医療に対しての市の責務を明言している。その関連会議である「地域医療を守る会」の今後の方向性を問う。

#### (2) 医療体制整備に不可欠なパラメディカルの確保について

① 医療体制を語る場合、医師を中心の議論になりますが、当然薬剤師、看護師、歯科衛生士、保健師、介護関係者等多くのパラメディカルの存在が重要。医師同様、市外で活躍している浜田市出身の医療資格保持者の誘致に、市として全力をあげるべきではないか市長の所見を問う。

#### (3) 医師確保対策の現状と今後のアプローチについて

① 本年度新規事業として「医師確保対策事業」という新たなアプローチを実施したことは評価しているが、医師確保対策の現状を問う。  
② 開業医の事業承継も含めて医師確保対策は急務。全国で「開業医誘致推進事業」と称して多額の補助金活用で成果を上げている自治体もある。当市もこのような事業を導入し新たなアプローチを行う必要があるのではないかと、市長の所見を問う。

#### (4) 中山間地医療環境改善について

① 過疎化が進行し、医師不足や医師の高齢化も深刻である。山間地域への往診移動コストも問題、さらに公共交通の不便により通院も大きなリスクとなっている。この問題に長野県伊那市が企業と協業して、医療機器等を搭載した移動診療車「ヘルスマビリティ」を活用して中山間地医療の充実を目指した実証実験を開始、実績を上げている。簡単に言えば医師が乗らず看護師が搭乗し、遠隔地診断システムを使用し医師が問診、バイタル確認を行う画期的な取組。これらの取組事業を「医療 MaaS」と呼び、全国の中山間地域を抱える自治体で導入が始まっている。当市として「医療 MaaS」の導入は大きな健康保持のアドバンテージになると考えるが市長の所見を問う。

#### (5) 医療センターにおける先端医療機器整備等に対する市のスタンスについて

① 現在、がん拠点病院である浜田医療センターにおいては、放射線治療機リニアックの整備が来年3月まで行われず、センターの機能が低下状況にある。運営の独立法人の問題といえどそれまでだが、以前のPET-CT 導入時に県、市、がん対策募金等市民の支援も大きな力となった。今後中核病院の医療の質向上のための市の支援スタンスはどうか、考え方を問う。